

教育長賞

生活と心を豊かにする

水の恵み

不二聖心女子学院中学校

一年 別所 さん

家族で祖父母の家を訪れる途中、車の窓から見える諏訪湖の水面がキラリと反射して、思わず目を細めた。遠くには水源の八ヶ岳が見える。私の好きな、水のある風景だ。もうすぐ祖父母に会えるうれしい気持ちを抑えながら揺れる湖面をじっと見つめるうちに、授業で聞いた地球の約七十％は水だという話を思い出した。

私の祖父母は長野で数種類の野菜を栽培している。毎日愛情を込めて世話をしていた野菜はとてもみずみずしく、私にとっては特別だ。真っ赤に熟れたトマトを収穫する時、私の小さいころから変わらない畑の風景と、元気な祖父母の様子にほっとした気持ちになる。

安全で清潔な水でおいしく育った野菜と、幸せな家族の笑顔の両方が、水の恵みのおかげだと感じる。蛇口をひねると、ホースから勢いよく水が噴き出して、畑の野菜たちは水を受けてキラキラと光っていた。

人間にとって水は必要なものだが、時には恐ろしい存在にもなる。私は幼いころ、愛知県に住んでいた。木曾川、長良川、揖斐川という大きな川に挟まれた濃尾平野では、歴史的に度重なる水害に見舞われてきた。その度に地域の人々は知恵を出し、治水工事や住居の工夫を重ねてきた。私の住んでいたころも大雨が降ると、川が氾らんしないかと不安な夜を過ごしたと母から聞いた。母と妹とよく遊ん

だ川辺の大きな公園は、大雨の時には水に沈むこともある
それで、周辺の家々を守る存在だった。花を摘んだり虫を
観察したりして過ごした楽しい日々は、多くの人の苦労と
工夫の上に成り立っていたのだと知った。

豊かな水のおかげで工業や文化が発展し、水のある風景
は私たちの心も育んでくれる。豊富な水と共存できる安全
な環境があるからこそ、心の豊かさも得られるのだろう。

世界に目を向けると、毎日何時間も何キロも歩いて水を
くみに行く子どもたちがいる。それも濁った水を。汚れた
水を飲まざるをえず、病気にかかり、命を落とすこともあ
るといふ。命をつなぐために水は絶対に必要なのに、安全
な水が得られないこと、水が原因で命がおびやかされるこ
とは本当に悲しい。そんな生活が強いられている子どもた
ちは水を手に入れることに精一杯で、水のある風景の美し
さに心を動かす機会はないかもしれない。そう思うと、も
っと悲しくなった。

持続可能な開発目標 (SDGs) の六番目は、「安全な水
とトイレを世界中に」という目標がある。世界の人口の約
三分の一、二十二億人が安全な飲み水を使えないという。
地球の約七十%が水だというのに、それが届かない人がい
るのは見過ごせない問題だ。今先進国ではこの目標の達成
に向かって動いている。今できることとして、私たちの生

活を支えてくれている豊富な水資源に感謝すること、シャ
ワーの時間をできるだけ節約すること、汚れた水をできる
だけ流さないようにすることなどが浮かぶ。最近では、企
業の取り組みも盛んになっている。水源の自然を守ったり、
節水、排水に役立つ新しい技術を開発したり、水のリサイ
クルをしたりなど、取り組みはさまざまだ。

水は命の源と言われる。人間も動物も植物も水の恵みを
受けている。それを忘れず、一人ひとりが学校や家で、会
社や工場などが力を合わせて、国々が協力し合って、水を
大切にすることが、地球の環境も守ることにつながると、
私は考える。

私の大好きな諏訪湖の美しい風景、祖父母の畑で元気に
育つ野菜がこれからも守られるように、世界中の人々、生
き物が水に困ることなく健康な生活を送り、心豊かに過ご
せるように、いつも考えて行動したい。